

KPI 自己評価表

WG-A

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
産官学連携事業	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。	<p>産官学連携による共同研究もしくは共同事業のきっかけづくりのために、連携大学が取り組む研究や教育を平易な表現で紹介をする「びわ湖東北部地域の産官学連携ハンドブック Vol.5」を作成し、紙媒体及び協議会ホームページを通じた電子媒体として各連携機関を通して情報発信した。</p> <p>本年度の実施事業による成果として、びわ湖東北部地域で新たに 2 組の産学間の共同研究・共同事業に取り組むグループを支援し、2019 年度より累計で 8 件の共同研究を実現することができた。10 件以上の実現に至らないものの、KGI である事業化・商品化に大きく貢献し、これまでに累計で 5 件の達成を果たすことができた。</p> <p>以上のことから、自己評価を A とする。</p>	A
インターンシップ・採用活動支援事業	・インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生数(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。	<p>インターンシップ・採用活動支援事業として、地域内の連携大学学生への就職活動に対する支援及び地域内企業への採用活動に対する支援に取り組んだ。具体的には、地域内企業の採用活動の強化を目的とした産官学連携によるネットワークの強化、情報発信用プラットフォームの構築、学生に対する就職ガイダンス、及びパネルディスカッション&合同説明会などのイベントを実施した。</p> <p>KPI でもある参加実績は、参加企業数延べ 111 社(2019 年度比+9.9%)、参加学生数延べ 276 人(2019 年度比+110.7%)となった。参加企業数は 0.1 ポイント届かなかったが、参加学生数を大きく上回る成果が得られたため、自己評価を A とする。</p>	A
UIJ ターン推進事業	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。	<p>びわ湖東北部地域内への UIJ ターンを促進するため、地域内の大学生や滋賀県内外の企業を志す方を対象に、事業の展開に役立つ時流に即した先端的分野の学習セミナーを中心に計画・実施した。事業単体として目標としていた新規起業数 2 者を達成した。</p> <p>UIJ ターン推進事業として、活動指標 (KPI) を調査し、「滋賀県外居住者」の「滋賀県内企業や事業所」への雇用を 42 名確認できた。このうち、新規学卒予定は 9 名で、中途採用等は 33 名であった。</p> <p>地域内への流入に大きく寄与できていることから自己評価は「A」とする。</p>	A

WG-B

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
生涯学習拠点整備事業	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。	活動指標 (KPI) は達成している。 公開講座教養コース 1 事業 10 講座、専門コース 3 事業 12 講座の合計 4 事業 22 講座を開講した。参加者は 662 名 (前年度 695 名) となり全講座対面で実施することができた。目標とする 10 講座以上開講できたため自己評価を「A」とした。	A
地域住民に向けた健康増進支援事業	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。	活動指標 (KPI) は達成している。 「地域住民に向けた健康増進支援事業」として 1 事業において 7 件の取組みを実施した (「中高年の健康ウォーキング」4 件参加者 104 名、「光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり」3 件参加者 108 名)。目標の 5 件以上の実施となったため自己評価を「A」とした。	A
国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。	活動指標 (KPI) は達成している。 本年度は、「災害に強いまちづくりプロジェクト」1 事業 4 件、「自然と歴史とくらしを次代につなぐプロジェクト」3 事業 4 件、「地域課題解決に取り組む学生プロジェクト」3 事業 7 件、「まちの魅力発信プロジェクト」5 事業 5 件、計 12 事業 18 件の活動を実施出来た。その中で学生が関わるまちづくり活動は 12 件であった。目標の 5 件以上になったため自己評価を「A」とした。	A
ネットワーク推進事業	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。	活動指標 (KPI) は達成している。 本年度は、「キャンパス SDGs びわ湖大会」1 事業、「市民活動団体交流プロジェクト」1 事業 3 件、合計 4 件の取組みを行った。キャンパス SDGs びわ湖大会は、学生・地域団体・自治体等が交流を持つイベントとなった。「市民活動団体交流プロジェクト」は域内 3 市 (3 会場) で開催し、約 2,300 名の参加を得た。交流会としては 2 回以上開催できたことから自己評価を「A」とした。	A

WG-C

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
SDGs をテーマとした共同講義事業および単位互換事業	SDGs をテーマにした共通科目を1科目以上開発する。 単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる。	SDGs をテーマとした新規科目「近江で実践SDGs」を令和3年度より開講し、それぞれの講義を主に5大学の教員が担当した。プラットフォーム内の3つの大学より59名の学生の受講登録があり、前年度に比べ受講者数が非常に増加した。また、本年度単位互換科目、提供科目の受講生については合計63名の参加があった。このため、自己評価は「A」とする。	A
幼・小・中・高校生への学習支援事業 地域内進学促進事業	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。 プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を7件実施した。前年度と比較して1件の増加となった。また、プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を、対面で年4回開催した。これらにより、活動指標 (KPI) を達成したため、自己評価は「A」とする。	A
地域人材活性化支援事業	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。	地域人材活性化支援事業として5つの事業を実施した。特に社会人等向けの教育講座について、15講座を実施した。また、連続講座を1講座(計3回)、出前講座を1講座実施した。また5つの事業には各ワークショップ、講演会、例会の実施も含まれる。活動指標 (KPI) の達成に加え多彩な取組を実施する事が出来たため、自己評価を「A」とする。	A
共同FD・SD事業	共同FD/SD研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。	共同FD・SD研修を5回実施した。また、共同IR事業を1回実施し、大学教育のFD・SDに資するデータを最終報告書とし作成し、分析結果の共有と事業成果の公表を行った。これにより活動指標 (KPI) を達成したため、自己評価を「A」とする。	A